

一般質問

12月定例会



内藤 眞一 議員

Q 好適環境水で特産品を

教育経済常任委員会、岡山理科大学の好適環境水の研究施設を視察した。

淡水魚と海水魚を一つの水槽で飼育することができ、実際にウナギ、エビなどを陸上の施設で養殖試験中だった。大学は実証試験を受け入れる候補地を求めており、委員会では本町で受け入れが可能か検討した。

施設整備に多大な費用をかけるに活用できないか考察し、旧小田小学校のプールや遊休農地の利用、未利用ハウス空き家に水槽を置くなどで可能との結論を得た。

また、岡山理科大学と飯南高校との連携にも期待出来ると思うが、実証試験誘致の考えはないか。あわせて、旧小田小学校のプール活用をどう考えるか。

A 大学を視察し検討する

町長 山崎 英樹

実証試験の誘致については、岡山理科大学を視察し考えた。事業には、支援は行うが町内のみならず取り組みを考えていただきたい。

大学等との連携は、保小中高一貫教育の第2ステージとして取り組みを進めたい。

旧小田小学校プールの活用は、地域の活性化につながる利用計画と、地元との調整が整えば活用していただきたい。



防火用水の役目もある旧小田小学校プール

Q 飯南米としめ縄のコラボで

本町の基幹産業はコメ作りであるが、いかに上手に販売するかがカギである。全国ではいろいろな名前を付けたコメが、イメージを伴った方法で販売されている。

わが町でも「日本一大しめ縄の町飯南町」として、コメ袋へのしめ縄シールの貼り付け、またしめ縄が印刷されたコメ袋の使用など、「飯南しめ縄米」として付加価値をつけて販売してはどうか。

A コラボによる効果に期待

町長 山崎 英樹

しめ縄と飯南米をコラボレーション(連携)させた売込みをという話は、最近よく聞く。町としても、「大しめ縄」「飯南米」などを応援するため「神・人・自然が育んだ飯南町の日本一」をキーワードに「ふるさと名物応援宣言」をしたところだ。

秩父宮ラグビー競技場(東京)で「飯南町PRイベント」を開催し、最優秀選手に飯南米を副賞として進呈することになっている。

こうした取り組みの成果を見ながら、関係者と研究していきたい。



依頼された大しめ縄を心を込めて制作します

一般質問

12月定例会



伊藤 好晴 議員

Q 待遇改善で保育士確保を

全国で保育士確保が困難になっている。保育士は潜在的にはかなりの数の有資格者がいるが、実際に仕事に就く人が少ないことから、現在の状況が生まれている。

厚労省は緊急対策を打ち出したが、効果は今ひとつである。根本的に、身分保障や待遇改善が必要な問題と考える。

保育士を対象にしたアンケートをみても、「効果がない」「保育の仕事に戻りたくない」などの回答があった。障害になつていないのは、「給料が安い」「労働条件が劣悪」などである。

本町では、保育士確保のために、給与が二重構造になっていることなど、政策の抜本的な見直しが必要と思うがどうか。

A 町独自で努力

町長 山崎 英樹

「人材確保支援センター」を設け、人材の確保に努めている。基本は、本町出身の保育士を育てることだ。飯南町独自で、できる限りの努力をする。

保育士の賃金格差があるということは、前提でやってきている。課題があるなら(財政のこともある)、保育所の統合も含めて議論が必要だ。

Q 小中学校の給食を無償化に

子どもの貧困が問題になっている。それが世代を超えて連鎖しないようにすることが重要な課題と考えられている。

子どもの貧困を放置すると、学校でもうまくいかないケースが多く、大人になってからの生活も不安定で、貧困が世代をまたいで引き継がれるという問題がある。

本町においても、貧困の連鎖から子どもを守るという、町としての責任も問われている。問題克服の一助として、給食費の無償化を再度提案する。

無償化は、全国で数多くの自治体で取り組まれており、少子化対策としても注目を集めていると聞き及ぶ。定住対策の一環としても有効ではないか。無償化導入に対する考えを教育長・町長に尋ねる。

A 今後の課題として

教育長 矢飼 斉

保護者の経済的な理由や貧困の連鎖によって、子どもの教育に支障が出ることは、あつて

A 国の動向見ながら対応

町長 山崎 英樹

政府で、「子育て支援」「就学支援」等の検討が進められている。提案については、国の施策の実施状況も見極めつつ、今後の検討課題とする。



楽しい給食「いただきます」